

# ザ・ジャーナル!!

Vol.2 No.3

秋号

“やさしき便り～岡山医療センターの今”

URL <http://www.hosp.go.jp/~okayama/> E-mail [info@okayama3.hosp.go.jp](mailto:info@okayama3.hosp.go.jp)

## CONTENTS

This is our hospital ●病院フェスタ開催される ——— 2～4

●センターTOPICS ——— 5

ジャストナウ ●耳鼻咽喉科、歯科、嚥下リハビリ ——— 6～8

●淳ちゃんのワンポイント手話 ——— 8

シリーズ ●岡山医療センター物語 第7話「憂愁の外来」 ——— 9～11

●わたしのこだわり Vol.1 ●私の趣味

●病院活動案内 ——— 12



写真 | 病院フェスタ「院内探検」  
(2007.11.3)

### 岡山医療センターの理念

一人にやさしい病院— をめざして

—Human Friendly Hospital—



- 1: 患者さまにやさしい病院を目指します
- 2: 病院で働く人にやさしい病院を目指します
- 3: 地域の人にやさしい病院を目指します

# This is our

## センターTOPICS

# 病院フェスタが 開催されました!!

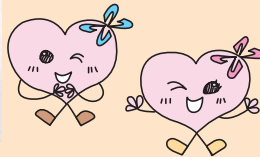
平成19年11月3日(土)



院長体験



看護部長体験



看護体験

- ・血圧、脈拍、体温測定
- ・聴診器で聞いてみよう
- ・模型血管を用いた点滴



調剤体験



管理課長 沖田 哲美

11月3日(土)、文化の日、秋晴れのもと「病院フェスタin岡山医療センター」と称し、地域の小中学生や高校生、一般の方々に病院を開放する催しを実施しました。これは、岡山県が企画した『まなびピア』に連携して、当院独自に企画したものです。全職員が知恵を出し合い、最新の医療技術、やさしい看護の実状などを手術体験、患者体験、院内探検ツアー等を通して紹介するとともに、地元特産物の販売、各種屋台の出店、Vリーグ岡山シーガルの親善試合など盛りだくさんの内容でした。当初の予想を上回る2千名以上の来場者があり、実行委員一同、ほっと胸をなでおろしました。来年はさらに充実したものにしようと思っておりますので、皆様、ご期待ください。

OH! 体操



岡山シーガルス  
親善試合



地域特産品販売  
各種屋台・バザー



# h o s p i t a l !

## 副看護部長 山本 喜志恵

院内探検ツアーは、まず、医師や看護師のスタイルで写真撮影。まるで本物の医師や看護師のできあがりです。看護師デザインのパスポートを首から掛けて、さあ、わくわく院内探検ツアー出発。手術室、NICU、リハビリ、放射線科、検査科と廻ってきた子どもたちの顔は輝きのある笑顔。「面白かった。」「CTの台に乗ったよ。」「手術室が良かった。」「赤ちゃんのところが良かった。」「クイズできたよ」などの声。その反応に主催者である私たちの顔も思わずほころびました。病院の中の職業紹介コーナーでは、展示をみてくれた中学生や高校生が「勉強がんばらなくちゃ」「看護師になるにはいろんなコースがあるんだ」などと話しており、今後の進路決定に一役買ったのではないかと、うれしく思えました。

地域の方や病院の中の職員との絆が強まった病院初のフェスタを通じて、日頃の仕事とは異なる充実感と達成感を味わうことができました。「来年もやって欲しい」という参加者の言葉に、担当者全員、笑顔でこのフェスタを締めくくることができました。

### 患者体験

- ・妊婦体験、沐浴体験
- ・車いす、搬送用ベッドに乗ってみよう



### アロマリフレッシュ



### お仕事紹介



### 院内探検受付



### 看護学校展示

## 病院フェスタを体験して

### 臨床検査科 三宅 佳子

「吸って～、思いっきり吐いてっ!」。はじめての病院フェスタの一日はこの掛け声で始まり、この掛け声で終わりました。わたしの担当は、肺活量を測ってみませんかの体験コーナーでした。

事前予約の少なかった臨床検査体験コースもふたを開けてみれば、大入り盛況でうれしい悲鳴をあげました。コースの中身は①ミクロの神秘(血液・細胞・細菌などの標本をディスカッション顕微鏡による観察)②超音波って?(フルーツinゼリーや金魚を使って実際の超音波装置を体験したり、最新鋭の3D装置を使った立体映像を観る)③呼吸機能検査(肺活量測定)④あなたの血管年齢は?(ABI検査で血管年齢を測定)、以上4コースを企画しました。

一番人気は血管年齢が測定できるABI検査で、めたぼコースの腹部エコー待合が目の前だったこともあり、めたぼ終了者の申し込みが殺到しました。

超音波コーナーの不思議な体験に来場者の歓声があがり、水槽の中から出たり入ったりした金魚たちも大活躍でした。

わたしが担当した呼吸機能検査は、院内探検コースにも入っていたため、約160名の方々に体験してもらい好評でした。

終了後どっと疲れがきましたが、多数の来場者があり充実した一日となりました。ただ、ひとつ残念なことは、あまりの忙しさに他のブースを見学できなかったこと、来年こそはいろいろ体験もしてみたいと思っております。

# This our

## 病院フェスタが開催されました!!

平成19年11月3日(土)



### 臨床検査体験

- ・顕微鏡でミクロの世界を観察
- ・超音波映像体験
- ・呼吸機能検査体験など

### メタボを学ぼう



### 外科内視鏡体験 内視鏡で UFOキャッチャー



### 外科手術体験

- ・外科手術糸結び体験
- ・皮膚モデルを使用した縫合体験



### 放射線科展示

からだの中を立体画像で  
見てみよう

## 外科医の卵がいっぱい! 「外科手術体験コース」

消化器外科 太田 徹哉

今年から始まった「病院フェスタ」に、外科からは「外科手術体験コース」を提案しました。これは、1年目の初期研修医を対象に毎年行っている「縫合・結紮セミナー」に内視鏡外科手術のデモ器での練習を付け加えた本格的なものです。

山陽新聞に事前に紹介されたこともあって、小中高校生から大人まで予約が殺到し、当日参加の方を含めて延べ100名の方に外科の手術手技を体験してもらいました。

我々外科医が考える以上に、基本手術手技(切る・縫う・結ぶ)に関する皆さんの興味は高く、少し教えるだけですぐ上手くなる子供達には本当にびっくりしました。こちらは、この道ウン十年なんだけどなあ??まいったなあ!と思いつつ、今後外科医が不足してきた時には、頼もしい子供達が沢山いるぞ!と心強いかぎりでした。

リピーターも大歓迎しますので、今後はあちらこちらに「医龍」が出現するかもしれませんね!

## 楽しかったよ。病院フェスタ! REPORT

横井小学校 五年 浅野良太

超音波による映像体験をやりました。「この3Dは、おなかの中の赤ちゃんの異常を早く見つける事が出来る」と教わりました。調剤体験は、大きなトラックの中で、薬の出る仕組みを聞き、ぼくが病気をした時に出る薬がこうやって出来ていると知りました。ふだん見る事が出来ない大病院の中が少し分かって、楽しかったです。来年は、もっとたくさん体験したいと思います。



横井小学校 三年 浅野佳子

わたしは、車いすをどうやってうごかせるとか、薬をどうやって作るのかがよくわかりました。とても楽しかったです。らい年は、内しきょうでUFOキャッチャーをぜっ対したいです!



# h o s p i t a l !

## 地域医療支援病院として承認されました! 地域医療連携室長 大森 信彦

医療の役割分担をはかり、中核病院と地域の医療機関の有機的な連携を促進するために、いくつかの要件が満たされた病院を、県が『地域医療支援病院』として承認する制度があります。当院は、平成19年10月2日付にて、岡山県下で3番目の地域医療支援病院となりました。認定要件をわかりやすく述べますと、『①病床数200床以上の規模(当院は580床)。②地域の医療機関からの紹介、地域の医療機関への紹介(逆紹介)が一定以上の水準である(紹介率40%以上、かつ逆紹介率60%以上)。

③地域の医療関係者への教育指導を行っている。④CT、MRIなどに代表される高額医療機器や病床を、院外の医療関係者にも共同利用してもらえるような体制を整えている。⑤24時間体制で救急医療を提供している。』の5点です。これらの要件を維持していくには、職員一人一人の努力と地域医療機関との連携強化が不可欠ですが、地域住民の皆様のご期待にこたえるべく、職員一同頑張っておりますので、読者の皆様、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 産科・婦人科病棟面会室完成!

6A病棟看護師長 有道 順子

この度、6A病棟にすてきな面会室が完成しましたので、ご紹介します。

あじさい広場「maimailーム」と呼んでいます。ご出産後の家族の面会がゆったりと出来るように広い空間を基盤にレイアウトしてみました。レースのカーテンがやさしく揺れ、薄いピンク色で統一した明るいお部屋です。時折、トトコの音楽が流れ、心を癒してくれます。小さいお子様も、

ママが赤ちゃんにおっぱいをあげるまで遊んで待っててくれます。面会室の外には様々のあじさいが植えられ、来年は多くのあじさいが鑑賞できることでしょう。



## 新任Drご紹介

(平成19年4月~10月)



消化器科 白髭 明典

平成10年卒で日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本内科学会専門医を取得しており、消化器病全般の診療に携わっております。患者さまのために精一杯努力していきたい所存でございます。



眼科 野中文貴

平成10年岡大卒の野中文貴といいます。岡山労災病院から今年の8月に着任しました。患者様をはじめ、職員の皆様、院内外の諸先生方の力になれるよう努めますので、御指導、御鞭撻の程、宜しく申し上げます。



耳鼻咽喉科 丸中 秀格

平成19年6月16日付にて転勤してきました。平成14年岡山大学卒業です。専門は耳鼻科領域全般です。岡山医療センターで地域の医療に役立つ診療をしていきたいと思っております。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 看護学生募集のお知らせ

附属岡山看護学校の一般入試日程は下記のとおりです。

### 1.願書受け付け

平成20年1月4日(金)~1月16日(水)

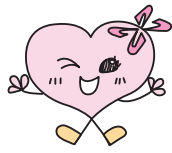
### 2. A日程:平成20年1月23日(水)

B日程:平成20年1月30日(水)

### 3.合格発表:平成20年2月8日(金)

詳細は、☎086-294-9292までお問い合わせください。





# わが病院の“光るワザ”

耳鼻咽喉科、歯科、嚥下リハビリ

## 耳鼻咽喉科

医師 丸中 秀格

### 耳鼻咽喉科とは

耳鼻咽喉科は耳・鼻・のど・頸部を専門に扱う科です。領域は狭いですが、人の五感のうち聴覚・嗅覚・味覚の3つの感覚器を含み、中耳・内耳や鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭、頸部など複雑な構造を持つ領域です。病気のタイプも、中耳炎・アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎（ちくのう）・扁桃炎・咽喉頭炎といった炎症性・アレルギー性疾患や、難聴・嗅覚障害・味覚障害といった感覚異常、鼻腔・咽頭・喉頭・口腔・唾液腺などにできる良・悪性腫瘍など様々です。

服部 央医師（日本耳鼻咽喉科学会専門医）と私の二人で、主に入院加療が必要な患者様を中心に治療を行っています。年間250件程度の手術を行っており、最近では鼻・副鼻腔手術を積極的に行っており、今回は鼻・副鼻腔の内視鏡治療について紹介します。



## 副鼻腔炎と内視鏡治療

ひと昔前の蓄膿（慢性副鼻腔炎）といえば黄色い鼻水をたらし、手術となれば歯齦部（ハグキ）に切開をいれ顔面骨から組織を剥離していたイメージですが、近年は抗生剤の進歩・公衆衛生の改善にて軽症化が進んでいます。とはいえまだまだ手術が必要になる重症の患者さまは多く、その内訳は、感染型の慢性副鼻腔炎が約6割を占め、残り4割はアレルギー性鼻副鼻腔炎や難治性の好酸球性副鼻腔炎です。

最近どの分野でも内視鏡が普及していますが、耳鼻科領域の内視鏡の概念自体は1970年代からあったものの、内視鏡の機器開発・技術の進歩によって1990年代から普及し始め、現在当院では鼻・副鼻腔手術のほぼ全例に内視鏡を用いて治療を行っています。今年の11月からは当院にHi-VisionのCCDカメラとモニターを搭載した内視鏡システムも導入され、より低侵襲で、より安全・より正確な手術ができるようになり、術後の治癒も早い。ため患者様の負担が少ない優れた治療が導入できるようになりました。当院では今後とも近隣の開業医の先生方と連携しながら岡山の地域医療の一翼を担っていきます。



スタッフ

## NO



## 歯科

医長 角南 次郎



歯科はいわゆる病院歯科として通常の開業歯科医院とは少し異なった歯科診療を行っています。まず、口腔外科の診療として口腔内に生じた腫瘍（癌をのぞく）や粘膜疾患、歯性の炎症や顎骨の骨髄炎、口腔領域の外傷、顎関節疾患、などを治療しています。とくに顎関節疾患のなかで顎関節症という疾患は現代においてますます増加する傾向にあり、当科では保存的治療だけでなく外科的治療も行っています。

つぎに歯科治療においては全身疾患を有する方の歯科治療（有病者歯科治療）に力を入れています。たとえば抗血栓薬を服用中の方の抜歯では抗血栓薬の服用を中止することなく抜歯しています。こうすることによって血栓形成を予防することができ、心筋梗塞や脳梗塞の発生を抑制できます。

そのほかには、歯科インプラントや口腔領域の疼痛疾患の治療、歯科恐怖症の方の静脈鎮静を行っての歯科治療などにも取り組んでいます。しかしながら当科は規模が小さく、全国の国立病院機構の病院の歯科のなかで最小クラスですので、多くの患者様に対応することはできず、悩みの種となっています。

## リハビリテーション科

## 摂食嚥下障害（嚥下訓練）

言語聴覚士 阿部 直美

リハビリテーション科言語聴覚療法部門では、失語症・高次脳機能障害・構音障害・摂食嚥下障害・言語発達遅滞などの患者様（小児・成人）に対して、評価・訓練・指導を行っております。中でも、近年特に注目されている摂食嚥下障害について紹介します。

摂食嚥下障害とは、食物を食べる（飲み込む）ことに障害を来した状態をさします。具体的には、咳き込む・熱発・痰の増加・呼吸苦・肺雑音などが見られれば、嚥下障害（誤嚥性肺炎）を疑います。しかし、嚥下障害は適切な治療と訓練により予防することも可能です。予防策としては、まずは意識レベルを確認ししっかり覚醒している時に摂取します。次に摂取姿勢です。重力を利用し物理的に食物が食道を通過するように、30度仰臥位・頸部前屈とします。また嚥下しやすいものを摂取します。ゼリー状・ムース状・ミキサー状のものです。水分は誤嚥を招く代表選手です。ですから、水分摂取の際には、とろみをつけてスプーンで1口ずつ食べます。

当院における摂食嚥下障害の新患者数は、年々増加傾向にあり年間約250例を越えます。このような状況に対応するため、平成17年6月から嚥下造影検査（VF検査）を導入し、平成18年2月から嚥下訓練食を提供してきました。より客観的評価を行なうためビデオ内視鏡検査（VE検査）の導入も検討しております。また院内研修会・地域連携セミナーなどを開催し、摂食嚥下障害に対する理解を深めているところです。嚥下訓練は言語聴覚士のみでなく、医師・看護師・管理栄養士・放射線技師など様々な職種が連携し、「より安全に・より長く・口から食べる」ということをモットーに取り組んでおります。今後はこの輪を、地域に向けて発信していきたいと思っております。



私たちは進化しつづけます

わが病院の”光るワザ“

耳鼻咽喉科、歯科、嚥下リハビリ

私たちは進化しつづけます

### —急性期から始める口腔ケア—

\*歯科衛生士 松尾敬子

病期や病態に応じた専門的口腔ケアを全病棟において推進しています。

おもに呼吸器感染症予防と急性期後の早期経口摂取につながるための摂食・嚥下機能の回復・維持向上を目指しています。

NST活動では、栄養改善を目的とした口腔ケア・口腔機能訓練を実施しています。

今後は地域連携バスを使用し、病院・施設・在宅でもとぎれない効果的な口腔ケアの連携システムを整備していきたいと準備をすすめています。



#### 口腔ケア・ワンポイントアドバイス —安全に・安楽に・効果的に—

##### 1. 口腔ケア中の誤嚥を防ぐ

安全な体位の確保  
特にベッド上の場合は側臥位・  
又は頭部のみ横向きにする  
吸引器の使用  
洗浄液・唾液・血液・痰等の  
汚染水分を確実に吸引する

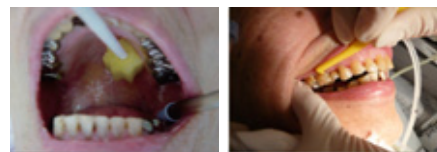
##### 2. 確実な開口保持により口腔内を直視する

困難な場合は、開口器  
(デンタルサポートなど) を  
上手に  
利用する



##### 3. 口腔内乾燥対策を確実にする

強い乾燥状態時は、十分な保湿を  
行ってからケアを実施する  
ケア後も保湿剤等の使用により、  
口腔内を乾燥させない



##### 4. 痛みを与えない

口腔内状況にあった必要な  
ケア用具を選択する

##### 5. 口腔ケア (摂食・嚥下機能訓練含む) の 必要性を患者様へ十分な説明を行う

### 淳ちゃんのワンポイント手話



## 手話にチャレンジ!

病院で役立つ  
一口手話

朝の薬は飲まずに持ってきてください。



**朝**

こめかみ付近に  
当てた右手こぶしを  
すばやく下におろす。



**薬**

左手のひらの上で  
右薬指をこねる  
ように回す。



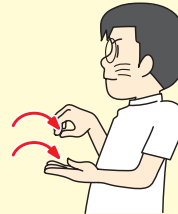
**飲む**

すぼめた手を口  
に入れるようにする。



**必要ない**

手前に引き寄せた  
両手を前にはじく  
ように開く。



**持って来る**

左手のひらの上で右手の  
親指と人差し指をつまむ  
ようにして手前に弧を  
描いて引く。



**お願い**

右手で拝む。



## シリーズ 岡山医療センター物語 第7話

DOCUMENT

## 憂愁の外来 ～ある名医のつぶやき～

外来は8時半にはじまる。もう看護婦さんは明るい声で「斉藤さん今日は採血あるわよ。」「原田さん、あとでレントゲンね。」と、てきぱき元気がよい。

でも、外来に向かう私の足取りは重い。

外来診療はいろいろ大変なのだ。階段を降りたときはスタスタだったのに、外来が近づくとつれて歩幅が小さくなって、うつむいて、ため息がでて、教員室に呼ばれた小学生みたいだ。でもそんなんじゃないあこっちが病人みたいで都合が悪い。ここはハラに力を入れてしぼんだ風船に空気を入れるようにして顔を上げ、できるだけ明るく「おはよう!」と診察室に入っていく。でもみんなから見えなくなるとまたしぼみそうになる。

診察室に入るとカルテの数を見る。

じーっと見る。目を皿にして見る。

少ないとトタンに元気がでて、院長には見せられないが、ちいさくガッツポーズなんかして急に生き返るのである。

そうすると次にすることは身だしなみの点検である。なにしろ「接客業」であるから身だしなみは基本中の基本である。

まず、口のまわりを見る。朝食の海苔がくっつ

いてないか。髪をみる。寝ぼけてボウーッとしたまま出てくるので頭は鳥の巣だ。さっそく水をつけて飛び出たやつを押し付ける。鼻毛もチェックしてもう万全だ。そお、シャツはきのうユニクロで買った分だから問題ない。最後にソックスは……左右同じ色で、間違いない。さあ始めるぞ。

「斉藤さあーん、どうぞはいってくださーい!」

カルテがたくさんあると、たくさんの患者さんが来るわけで困ることも出てくるのだ。

なにしろ私は名医なので、患者さんの訴えには際限がない。専門外のことも解決してあげないといけないのだ。

「株が値下がりして頭が痛い。どうしたら治るか?」だの、「目がかすむのだが、黒酢ダイエットが原因だろうか?」とか、はては「娘がお産をするのにお守りはH稲荷がいいかB神社がいいか?」と、専門外でとても困ってしまうのだ。

今日はどうな外来になるだろうか。海苔がくっついていても頭が鳥の巣でもどうでもいい。なにとぞ難しいことを言う患者さんがありませんように。鏡を見ないで机について、おそろおそろ、

「佐藤さん……どうぞ……」

窓際のドクター



## 今宵もバーチャル、するぞ。

呼吸器科医長 米井 敏郎

多列検出器CT (MultiDetector CT, MDCT) はX線を扇状にやや広い角度に照射し、同時に検出器自体をスライス方向に、例えば0.5mm刻みで複数並べたものである。マルチスライスCT (MultiSlice CT, MSCT) とも呼ばれる。2007年現在、検出器を64列に並べた64列CTが各社から製品化されており、岡山医療センターに導入された東芝メディカルのAquilion64もこの64列の多列CTである。撮像技術の進歩により、0.5mm厚といった非常に薄いスライスでの撮像が、日常的に可能となり、画像の枚数も大幅に増加したため、現在では多くの施設で、フィルムではなく、CRTや液晶ディスプレイ上で、リアルタイムにコントラストや明るさを調節しながら画像を観察するようになっている。十分に薄くなったスライス厚は、CT画像を3次元的に捉えることをも可能とした。1回の撮影で得られたすべての画素をCT値 (X線吸収の程度) の3次元行列として捉える。この3次元上のピクセルのことをボクセル (voxel, volume pixelに由来する) と呼ぶ。任意の方向に十分な解像度を持った3次元のボクセルデータが取得できるようになり、それを記憶・処理できるメモリやパソコンも非常に安価となったため、様々なCTの観察方法が利用されている。任意断面再構成 (MultiPlanar Reconstruction, MPR) は3次元の等方性ボクセルデータを用い、対象物の任意の方向の断面を再構成して表示する。十分に解像度の高いボクセルデータは、再構成して適切な陰影付け (shading) ・遠近感を施し (ray casting)、人間が直感的に把握できる3次元グラフィックスとして表示できる。これを3D volume renderingという。断層像では認識しづらい複雑な脈管構造や、立体的な構造把握の難しい部位でもきわめて容易に可視化できる。視点を気管・気管支内や大腸内に

置き、これら臓器の内面を立体的に表示する、バーチャル内視鏡は最先端の技術である。しかもインテルのDual Core Processor搭載ノートパソコン程度の性能であってもストレスなくバーチャル画像をリアルタイムに表示可能である。

前置きが長くなったが、筆者は呼吸器内科医であるので胸部CTを撮像する機会が多く、肺癌が疑われる患者さんの匿名化されたボリュームデータから3D volume renderingを夜な夜な行い、診断率の向上を目指している。電子診療録からアクセスできるCTの胸部画像はせいぜい200スライス程度であるが、実際には0.5mmピッチで撮像するとすれば元の画像には800~1000スライス程度のデジタルデータが存在していることとなる。画像サーバーの容量制限のために多くのデータが捨てられており、このデータを利用しないのはもったいないと思われる。デジタル・デバインドという言葉が一時もてはやされたが、数年前には3D volume renderingを駆使して診断に利用できる医師とそうでない医師との間にデバインド (バーチャル・デバインド?) がおきるような気すらする。パソコンにDICOMデータを読み込んで様々な画像処理により人



3次元画像 (任意断面)

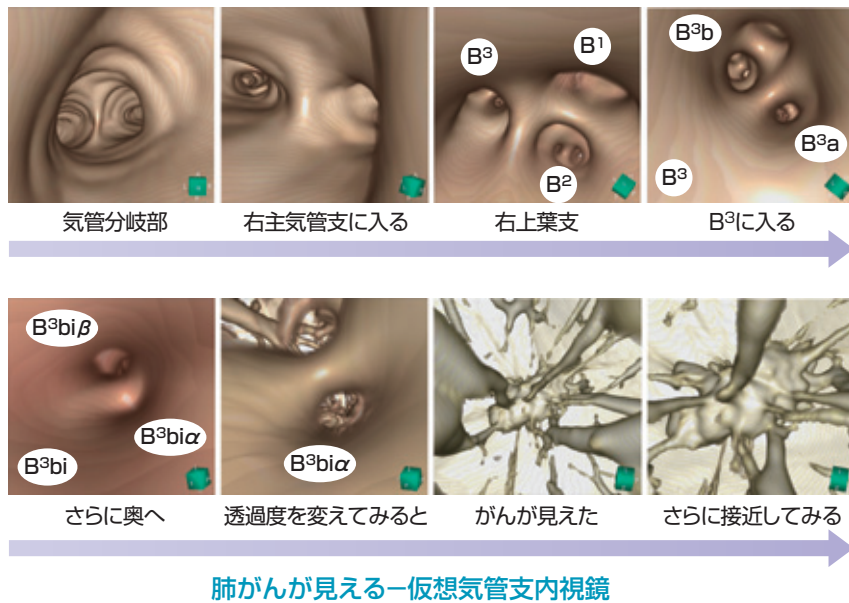


3次元画像 (肺の胸膜面の描出)

体の内部を駆けめぐるとある種のスリリングな感動すら覚える。これは実際に体験してみないと決して実感できない。単純X線で（通常CTでも）見落とされやすい肋骨骨折など volume renderingすれば一発で診断できるのである。先般、消化器科の山下先生がカプセル内視鏡のデモンストレーションに1966年のアメリカ映画『ミクロの決死圏』をひきあいに使われていたが、バーチャル内視鏡も

イメージとしてはこのSF映画に非常に近いものがある。しかも通常内視鏡では到達不能の血管内や脳内などにも容易に侵入できるのである。まだまだバーチャルを始めて間もないので学ばなければならないこと、習得しなければならないことが数多く存在するが、この技術は必ずや患者さんの役に立つ技術であると確信する今日この頃である。さあ、今宵もバーチャルしてみますか？

まるで、ミクロの決死圏！



## 私の趣味

### マイホビー 小児外科医長 後藤 隆文

若い時は『仕事が趣味で、趣味は仕事』と信じていました。“仕事以外に趣味を持つ暇など（医師には）ありえない”とも思っていました。しかし1年半の海外生活を経験した三十後半には、仕事仕事の毎日では“気持ちの張り”がどうにも維持できない自分を発見しました。仕事に打ち込んでいても、気分的に息切れがするようになったのです。仕事へのエネルギーを持続させるため、何かしらの気分転換（趣味）を探る必要に迫られました。ゴルフを少しかじりましたが、下手・拘束時間が長い ということでギブアップです。そんな時に学生時代にやっていた“弓の稽古”に誘われました。久し振りにすると、以外に面白く、気分転換にもなり次第に嵌ってまいりました。そして、仕事と趣味（弓）の二束の草鞋を使い分けながら、約十数年が経ちました。仕事に限界を感じると趣味に逃げ込みつつありますが、これからも身体の許す限り、二兎を追っかけて行くのだと思います。

さて、当院にも弓道部があります（当院には意外に学生時代の弓道部OB/OGが多いようです）。十年位前から岡山県実業団弓道大会に参加するようになり、優勝・準優勝を何度か経験しています。参加資格は当院職員（OB/OGも含む）です。弓歴のある方は是非（気分転換を兼ねて）ご参加されることを期待致します。



# [病院活動案内]

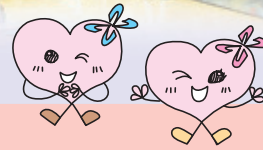
## 地域医療研修室 セミナー・講演会 (12月～2月) 会場/当院4階大研修室 時間/19:30～20:30

日程	種別		演者
12月18日(火)	初期治療セミナー	他科の先生方のための 精神科の知識 一つ病一	当院精神科医長 清水 義雄
1月15日(火)	初期治療セミナー	他科の先生方のための 泌尿器科の知識 一尿路感染症一	当院泌尿器科医師 瀬野 祐子
1月24日(木)	講演会	感染対策	当院感染対策室室長 金谷 誠久 感染管理認定看護師 形山 優子
2月19日(火)	初期治療セミナー	小児救急医療	当院小児科医師 久保 俊英 白神 浩史 金谷 誠久 福原 信一

### ●古城先生表彰される●

小児科医長 久保 俊英

このたび小児科の古城真秀子先生が、ムコ多糖症親の会から第2回の「Doctor of the Year」として表彰されました。ムコ多糖症というのは生まれつきの酵素欠損のために体の至る所にムコ多糖が蓄積して様々な症状を呈する難治性の代謝疾患です。先生は日本で初めてVI型のムコ多糖症の患者様の酵素補充療法に携わり、その努力と真摯な姿勢が高く評価されたものと思います。その後も先生の評判を聞きつけて、酵素補充が必要な他の代謝疾患の患者様も多数訪れられています。



小児科医師 古城 真秀子

今まで治療法が造血幹細胞移植しかなく、ドナーが見つからなければただ症状の進行を見守っていくことしかできなかったムコ多糖症（I、II、VI型）に、新しい安全な酵素補充療法ができるようになりました。薬剤部、皆さんの協力に支えられ、効果はゆっくりですが少しづつ現れてきています。痛い点滴を我慢して、症状の改善を信じてくれている患者さん達のお手伝いできて本当にうれしいです。

## 看護師募集!

転職をお考えの看護師さん、来年看護師になられる学生さん、現在事情で仕事から離れ再就職をお考えの看護師さん、活気のある病院で働こうと思われるファイターの方をお待ちしています。まず、ご一報ください。

- 院内に保育所を設置（保育時間8～18時）
  - 宿舎5階建100室（ワンルームタイプ、キッチン・バス・トイレ付）
- ※詳細はお問い合わせください

- 採用試験面接
  - 1.申込み切 平成20年1月24日(木) 必着 実施日 平成20年2月7日(木)
 ※詳細は、当院ホームページを御覧下さい。メ切後も随時対応します。連絡・問い合わせ 人事担当/黒田 TEL.086-294-9911 (内線8183)



### 編集者から ●あとかぎ

今号は、去る11月3日に開催された病院フェスタを特集いたしました。直前まで準備に追われ、本当にできるのかと、はらはら、どきどきでしたが、ふたを開けてみれば、来場者2000人にのぼる大成功。職員の集中力と底力を改めて実感しました。私も即席屋台チームの一員としてポップコーン売りのお姉さん(?)として参加しましたが、悪戦苦闘の連続で、楽しみにしていた地元田益町内会の皆様が作ら

れた野菜やお惣菜などの販売コーナーに買いに行く間もありませんでした。振り返ると、息つくひまもないほど、大きな行事や工事の続いた平成19年も、この病院フェスタで一段落。あとは、職員大忘年会を残すのみといったところでしょうか。これからも、地域に開かれた病院として、周辺住民や医療関係者の皆様に愛されるような情報発信を続けていきたいと思えます。(妹尾 記)

## ザ・ジャーナル!!

第2巻 第3号

平成19年12月1日発行(年4回発行)  
編集責任者 大森信彦  
独立行政法人 国立病院機構  
岡山医療センター 地域医療連携室  
広報誌編集チーム  
〒701-1192 岡山市田益1711-1  
Tel.086-294-9911 Fax.086-294-9255  
印刷:山陽印刷株式会社